



題字 井口 文章
再刊 第286号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

明日はいよいよ卒業式！
3年生の皆さん卒業おめでとうございませう。
卒業しても錦城で過ごした3年間を胸に、
幸せな道を歩んでください。

卒業間近、最後まで笑顔で

54回生三送会開かれる

2月27日(水)の午後、第一体育館で54回生の三送会が行われた。1・2年生や先生の個性豊かな出し物やビデオレターで旅立つ3年生を祝福した。会場は熱気包まれ、思い出に残る三送会となった。(編集部共同取材)

2月27日(水)第一体育館にて54回生の三送会が行われた。軽快な音楽とともに3年生が入場し、在校生は拍手で迎える。3年生が全員席を離れ、先生達で結成されたバンド「キューティン」の演奏が流れる。三送会の幕を開けた。



先生達の演奏する『学園天国』にサイリウムをノリノリで振る3年生

成されたバンド「キューティン」の演奏が流れる。先生達がヤンキーやキューティン、ハニーのコスプレで小泉今日子の『学園天国』を演奏すると、会場から歓声が沸き上がった。その後も軽音楽部や体操部などがそれぞれのパフォーマンスで会場を盛り上げた。空手道部は「BIG BANG GUS『BANG BANG BANG』」に合わせた板を割り、ダンスを合わせて観客を魅了した。



軽快な音楽に合わせて迫力ある技を披露する空手道部

ビデオレターでは、現在3年生を受け持っている先生だけでなく、すでに錦城を離れている先生からも3年生への感謝と激励の言葉が多く寄せられた。それだけでなく、先生たちがCMやテレビドラマ、映画を錦城風にアレンジしたものや、体を張って披露したものに大きな歓声と出演している先生の名前を呼ぶ声も聞かれました。特に「平成最後のバラエティ」と銘打った映像では「テツトモ」「あたりまえ体操」「カローリーゼロ理論」「平野ノラ」といったネタが盛り込まれ、会場は笑い包まれた。

合唱同好会は、月・水・木・土曜日の4日間、英会話教室や視聴覚教室Aで活動している。しかし、部員の多くが兼部しているため全員が集まるのが難しいのが現在の悩み。情報の共有はSNS中心にならざるを得ないが、話した内容をコピーし配布するなど工夫をしているそう。

有志合唱団ついに同好会認可

2月20日(水)の職員会議を受けて、有志で活動していた合唱団が来年度の4月から正式な合唱同好会として認可されることになった。

副代表の熊田あいなさん(1D)は「いろいろな人のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです」と話した。一方、身が引き締まる思いだとし、「同好会設立までには多くの組織をより固めなければいけない」と熊田さん。1人ひとりと嬉しいうえに笑顔を見せた。



4月のコンサートに向けて活発に活動している

新入生歓迎会。熊田さんは「同好会となったから、校内のみならず校外の人の心にも残る合唱を届けたいです」と話した。

待望のリュックサック完成！

在校者は4月から購入可能の予定
昨年度、中央委員会の意見箱に意見が多寄せられたことから始まったリュックサック製作。秋にはサンプルが生徒にお披露目され、今回正式に完成した。新入生への予約販売はすでに開始されている。成長期でもある生徒の体を考えて導入されたこともあり、クッションが多用されていたり、背中や内ポケットを付けるなど生徒からの意見も多く採用されている。値段は9800円+税。在校者は4月から購入できる予定だ。(蘭)



左：完成したリュックを背負った写真
上：リュックの中にはたくさんさんの教材が入る

感謝を込めた装飾作り

三送会前日の2月26日(火)に、3年生の各教室の装飾が行われた。黒板アートを加した渥海鈴菜さん(2D)は「3年D組の生徒だったことを忘れてほしくないの、窓に大きく『3D』の文字を作りました」と語る。「お世話になりました」と感謝の気持ちを込めた装飾が施された。



工夫を凝らして黒板を飾る在校生たち

1年生が、教室の飾りつけを2年生が行い、協力して3年生を送り出す準備をした。今年度は机1つひとつにメッセージが書かれた折り鶴を置



クラスの一人であったことを忘れないと願いを込めて

ソフト部地域清掃に参加

2月17日(日)、七小青少年対主催の地域清掃にソフトボール部員が参加した。スタート地点は小平第七小学校。同小学校の児童や小平第六中学校の生徒、地域の方と共に、東京街道など地域の歩道を清掃した。参加した部長の渡邊理子さん(2D)は「道は思っていたよりも綺麗でしたが、歩道の植え込みなどにゴミがたくさんありました」と振り返る。また、錦城生が登下校で多く利用するコンビニエンスストアの付近には、商品のゴミがポイ捨てされているのを見つけたそう。清掃の後には、参加した人に豚汁が振る舞われた。渡邊さんは「来年も再来年もソフトボール部だけでなく、色々な部活に地域への感謝の気持ちを込めて参加して欲しいです」と語った。(巴)



清掃をする参加者たち

寒さを吹き飛ばす活躍

女子バスケットボール部
樺CUP4位入賞
2月3日(日)に保谷高校、17日(日)に創価高校で開催された樺CUPで、1リーグ4位に輝いた女子バスケットボール部。部長の辻明日佳さん(2E)に話を聞いた。初戦は去年の夏に行われたひまわりカップで敗北したチームとの対戦だったという。



白いユニフォームが錦城
試合開始直後のジャンプボール

大会を終えて、大事な試合では緊張してしまつたため、もつと試合のような雰囲気練習がしたいと感じたそう。4月に開催される関東予選に向けて「プレー面を一つひとつ練習で詰めること、もっと皆で盛り上げて声を出すことを頑張ります」と意気込みを語った。

ダンス部
ウィンターステージ開催
2月23日(土)、多目的ホールでダンス部のウィンターステージが行われた。閉演後には出口の前に部員が並び、フレッシュな笑顔と拍手喝采の中、幕が閉じた。

「絶対勝ちたい」という強い思いで試合に挑み、見事勝利した。「試合中に声かけやハイタッチをして雰囲気よく終わ」と振り返った。

「今年の反省を生かして、今年に大好きな学年でした。ありがとうございました」と感謝を口にしました。

実行委員長に聞く
三送会を終えて、実行委員長の後藤美沙希さん(2A)は「あつという間の本番でした」と語り、

と振り返った。

「絶対勝ちたい」という強い思いで試合に挑み、見事勝利した。「試合中に声かけやハイタッチをして雰囲気よく終わ」と振り返った。



部員全員が舞台上に集まり、拍手喝采の中エンディングをむかえる

むらさき草

未来に希望はない、あるのは絶望の日々。それでも主人公の少年は叫ぶ「希望があるのに、逃げるのはイヤだ。その一言で、大人たちは新たな出会いと安住の地を求めて、長い旅に出ることを決意した」▼2017年に放送されたアニメ『クジラのうた』に「泥くじら」に住む人々の物語。謎の船からの襲撃によって大切な人々を失った人々。何の光も見いだせない大人たちに向かつて主人公が叫んだのが冒頭の台詞▼この台詞がテレビで放送されたとき、目を離すことができなかった。録画して何度も何度も、繰り返しその部分を見返した▼こんなにも壮絶な一歩を踏み出す選択は、私たちの生活の中ではそうないだろう。身の回りに起こるのは、このストーリーと比べてしまえば本当に小さな事ばかり。最近あったことは先日行われた校内ピリオパトルに参加したことだ▼話すことが苦手で、最初は出るつもりはなかった。しかし結局先生や友達に流され、参加することになった。バトルでは自分ではあまり読まないジャンルの本に触れることが出来た。参加しなければ知ることが出来ない、私の知らない様々な世界の存在▼3月、卒業式やクラス替えなどの行事が多くなる。そして別れた先には新しい出会いが待っている。何が起るか分からない未来を「怖い」と思うこともあるだろう▼何事にも一歩を踏み出すには勇気がいる。でも一歩を踏み出すのを拒めば、その先に広がる世界を見ることはできない▼水曜日の三送会のビデオメッセージには、先生たちが生徒へと送る言葉の一つひとつに、3年生を快く送り出す言葉が込められていた。そのビデオを前に進む勇気をもらえたという3年生も多かったろう▼いよいよ明日は卒業式。卒業したその先にはきっと素敵なことが待っている。(英)

五輪ボランティアに興味ありますか?

「中高生枠」も検討中

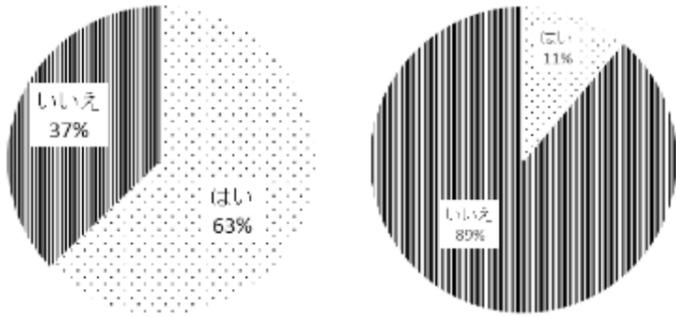
2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、各自自治体が募集する都市ボランティアの応募が行われた。年齢制限のため高校1年生は応募できなかったが、現在「中高生枠」の検討が行われている。今回1・2年生を対象にボランティアについてのアンケートを実施した。

1年生の参加希望を調査

1年生関心ありは6割
2018年12月21日(金)
2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会ボランティア、都市ボランティアの募集が締め切られた。オリンピックボランティアは、競技会場や選手村での運営サポートを行う「大会ボランティア」と、国内外からの旅行者に対して、国内外からの旅行者に対しての観光・交通案内などを行う「都市ボランティア」の2つに分かれる。大会ボランティアは東京2020組織委員会が、都市ボランティアは東京都などが主催する。大会ボランティアは、競技会場や選手村での運営サポートを行う「大会ボランティア」と、国内外からの旅行者に対しての観光・交通案内などを行う「都市ボランティア」の2つに分かれる。大会ボランティアは東京2020組織委員会が、都市ボランティアは東京都などが主催する。

「中高生枠」というものを知っていますか

大会ボランティアまたは都市ボランティアに興味がありますか



1学年12クラスを対象にアンケートを実施(有効回答数439人)

「中高生枠」知る人は1割

2018年3月23日(金)
2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会が、大会ボランティアとは別に「中高生枠」という新たな枠を設ける方針であるという記事が掲載された。記事には「次世代を担う中高生がボランティア活動の価値を体験することは教育の価値も高く、有意義と判断した」とある。

「中高生枠」とは

そこで都市ボランティアの活動を取り扱う、東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部の方に、中高生枠について話を聞いた。推進部の方によると、都では検討中との回答を得た。「1年生に1度の大きな大会に中高生も関わられるようにしたい」と思い検討を始めたそう。あわせて、競技大会組織委員会や、大会ボランティア運営事務局にも問い合わせたとのことだ。

ボランティアに参加できることになったら参加したいですか(1年生)

この記事をもとに、「今検討されている「中高生枠」というものを知っていますか」をアンケートで聞いてみた。結果、約9割が「知らない」と答えた。どうやら「中高生枠」の認知度は低いようだ。

興味のある1年生

1年生には「もしボランティアに参加できることになったら参加してみたいですか」という質問にも答えてもらった。「参加したい」と答えた生徒は5割止まりに。中には、「興味はあるが、受験が控えているから参加できない」と話し「手続きが面倒くさい」という声も。

一方、金武宏樹くん(1D)

「参加したい」と答えてくれた1人。大会ボランティアの存在をニュースで知ったという。具体的な、日本を訪れる外国人観光客などに英語で対応と聞いてみた。結果は、申し込みをした2年生が13人いたことがわかった。

2年生の関心度は

ボランティア関心あり5割
2年生にも11クラスにアンケートを実施した。有効回答数347人のうち、53%の184人が「東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに興味がある」と回答した。1年生と比較すると、2年生はやや低い結果となった。

2年生の申し込み13人

申し込んだ理由を取材

大会ボランティアに申し込み、よく話を聞いていたという宮本くん(2C)に話を聞いた。宮本くんは親から大会ボランティアの存在を聞いたことがきっかけで興味を湧き「日本にオリンピックが来るといい機会にぜひ関わってみたい」と思いました。採用結果や配属先は未定だが、スポーツ会場でのボランティアに携わりたいという意欲がうかがえる。

宮本くんは「ボランティアは新しい出会いによって視野が広がられ、自分の考え方に影響を与えられると思います。なかなかできる経験ではないので濃い期間にしたいです」と意気込んだ。

応募した理由

五輪という一大行事の運営の仲間入りしたい
なかなか無い、貴重な機会だから
好きな競技の運営に関わりたいから
一生に1度の経験になるかもしれないから

地元小平でできるオリパラボランティア

誰でも参加できる活動
2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて活動は小平でも始まっている。その1つが「小平市民プロジェクト」。有志の市民が主となり、市とも協力しながら立ち上げた。子どもも大人も一緒に、思い出さずして小平に残るものを作るという目標がある。現在のプロジェクト参加



代表の由井敬さんに取材

者は30人弱。会議は月1回開催されており、障がいのある人や外国人、小さな子どもから大人まで様々な人が集まっている。小平市民プロジェクトは「環境」「スポーツ」「文化芸術」という3つのテーマを設定し活動している。環境分野では一定の時間内でチームに分かれ拾ったゴミの量を競う「スポーツゴミ拾い」イベントの開催を計画。これは2008年に発案され、現在では海外でも行われており、楽しみながら社会貢献ができるという注目されているものだ。ス

スポーツ分野ではパラリンピックの正式種目であり健常者と障がい者が一緒に楽しめる「ボッチャ」を行い市民の友好を深める計画がある。文化芸術分野では小平にちなんだミュージカルを行うことを検討している。このように、小平の活性化に向けて様々な計画が進んでいる。

東京2020に向けて

オリンピック・パラリンピックにむけて、イベントでオリンピックに関わるクイズや園や広場などの特設会場に大



プロジェクトの一環として製作されたクイズ

められている。これらは外国人に向けて英語版でも作られている。市民へのアンケートではパブリックビューイング(公園や広場などの特設会場に大



「減らないので参加できるなら時間を見つけていきたいです」

新聞委員会も五輪活動に参加

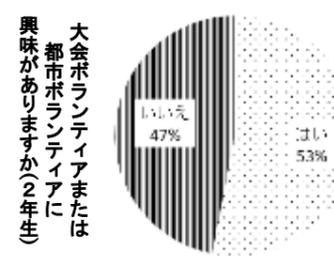
新聞委員会編集部が幾度か渡って東京五輪文化プログラムに参加している。文化プログラムとは文化オリンピック(※)に基づき、全国各地で企画されている様々なイベントの総称。



来場者や担当者に取材する編集委員(2017年度取材会)

オリンピック・パラリンピック大会はスポーツの祭典だけでなく、文化の祭典でもある。文化プログラムは「地域の文化・歴史がテーマの祭り」等を対象としている。テーマは芸能・芸術、多文化共生、まちおこしなど様々だ。2016年から2年連続で編集委員は東京・有明のパナソニックセンター東京で「文化プログラムプレスセンター」取材会に参加。オリンピック公認イベントなどを取材した。2017年には全国各地から訪れたアーティストが様々な踊りを披露する「東京キャラバン in 八王子」へ足を運び、主催者や出演者などにインタビューを行い、各々が胸に秘める思いを知ることができた。今後も文化プログラムは全国で開催される。機会があればこのようなプログラムなどに参加していきたい。(李)

※五輪に向けた文化振興活動。開催国では4年間、文化活動の推進がIOCにより義務づけられている。



東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるといっても貴重な機会。これからは様々な取材を通して東京オリンピック・パラリンピックのボランティアの現状や課題を追っていく。

大会報告は職員室前の「大会報告ボックス」に入れてください。大会名、場所、日付、結果、出場者を必ず書いてください！
お問い合わせ先
H R委員会 三送会準備 随時活動中



合唱祭DVDが完成しました!

合唱祭DVD購入を希望される方は新校舎7階の映画研究部の部室、またはお近くの映画研究部員まで!! 錦城祭後夜祭のDVDも発売中です。
合唱祭DVD(各学年):500円 錦城祭後夜祭DVD:500円

大会報告

女子バスケットボール部
2月17日(日)
▽椿CUP決勝トーナメント
4位